

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所

所 管 課 業務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	2-3- ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核・感染症対策	福島県内の結核菌の分子疫学調査研究	結核菌のRFLP法による遺伝子解析を実施し、県内の結核の感染経路を解明すること(分子疫学的調査)により結核対策に資する。	県内医療機関等の協力を得て結核菌株の提供を受け、RFLP分析を実施し、コンピューターシステムで遺伝子パターンと比較解析をする。	17	19	A	コンピューターシステムによるデータベースの遺伝子パターンと比較解析は、目視による結核菌RFLP分析よりさらに多くの情報が得られることがわかった。	結核菌株の遺伝子情報を解明することで感染経路の確定に役立てることができた。
2	2-3- 生活衛生等の確保(食品等の安全性の確保)	食品等の安全性の確保	LC/MS(高速液体クロマトグラフ質量分析計)による健康食品中未承認医薬品の一斉分析法の調査研究	LC/MSによる健康食品中の瘦身用成分・強壯用成分のうち問題となっている未承認医薬品成分の一斉分析法を検討し、県民の健康被害の未然防止を図る。	業務課が実施している健康食品検査事業の検体を用い、瘦身用成分・強壯用成分別にLC/MSにより一斉分析法を検討する。	18	19	A	19年度より医薬品等の監視指導、苦情対策に一斉分析法を導入し、検査の迅速化を図った。	LC-MSによる健康食品中の未承認医薬品成分の一斉分析に取り組み、分析法を確立するとともに、薬事法に基づく監視指導事業の検査に活用するなど、本研究の成果は目的を十分に達成したといえる。
3	2-3- 生活用水の確保と上水道の整備	安全な飲料水の供給	県内主要河川のクリプトスポリジウム汚染の実態について	環境水中のクリプトスポリジウム、ジアルジアの(オー)シスト(休止状態の原虫)の同定に、形態学的観察の他に遺伝子検査を取り入れることで、その精度を向上させる。	コントロール(オー)シストを定法により処理し、形態的に確認した後、DNAを抽出し公表されているプライマーを用いて標的領域を増幅する方法を確立させ、県内河川の実態調査を実施する。	18	19	B	クリプトスポリジウム・ジアルジアの検査法を確立したことにより、汚染実態調査を可能にした。	環境水中のクリプトスポリジウム、ジアルジアの検査法を確立し、河川の汚染実態調査を可能にした点で、本研究の成果は目的を概ね達成したと判断される。

試験研究機関名 環境医学研究所

所 管 課 業務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	3-2- 新しい産業の育成(医療・福祉関連産業の振興)	医療福祉関係産業の振興	種々な疾患における人血清ヒアルロニダーゼ)活性の意義	人血清ヒアルロニダーゼ活性の測定例数を蓄積し、医療現場に技術移転が可能となるよう、細部の方法に修正を加えながら、人血清中のヒアルロニダーゼ活性レベルの凡その範囲を確認し、異常値を示す症例の発見とその病態との関係を解析する。	病院検査室での検査終了後の保存人血清の供給をうけ、36検体/週を目標として電気泳動を行い、染色後の画像からヒアルロニダーゼ活性を求める。例数の蓄積をとりあえずの目標とし、そのなかから本酵素活性の異常値と疾病との関係の有無を臨床医の協力を得て検討する。	16	19	B	協力病院での臨床への浸透が出来なかった。	病院の協力体制の限界から臨床現場への技術移転が出来なかったと考える。
2	2-3- ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	難病対策	骨髄不全症候群の病態解明	骨髄不全症候群は、前白血病状態として位置づけられており、その発症には何らかの免疫学的機序および発癌機序が関与していると思われるので検討する。	1 骨髄不全症候群の免疫学的機序の解明 2 骨髄不全症候群の発癌メカニズムの解明	15	19	B	現在の研究体制の下においては、目的を十分に達成したと判断されるが、上記の問題点を改善して頂ければ、今後Aの評価へ移行する事は可能である。	現研究体制の中で可能な範囲の成果となっている。

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ

所 管 課 産業創出課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	3-2- 新しい産業の育成	ニーズ対応型研究開発事業	電解作用を用いたバリ取り技術の開発	バリを除去する時間を短縮するため、一工程で実施できる工具の開発と最適な加工条件を確立する。また、バリ取り要求が多い小径の交差穴についても工具の開発をし、加工条件を確立する。	次の項目について研究し、最適な加工条件を構築する。 1. 二工程によるバリ取り工程を一工程に削減する。 2. 小径交差穴のバリ取り加工条件を確立する。	19	19	A	電極工具の開発に成功しかつ、バリ取りの加工条件の確立にも成功し目的を十分達成したと考える。	電極工具の開発と加工条件の確立の研究目的が達成できたことは評価できる。今後は、研究成果が速やかに移転されることが望まれる。
2	3-3- 地域資源を生かした産業の振興	ニーズ対応型研究開発事業	新多様性清酒酵母の開発	近年、開発が盛んとなっている多様化する清酒に合うような新しい福島県オリジナル清酒酵母を開発する。	近年の全国新酒鑑評会で入賞できるレベルとして、カブロン酸エステル生成能が通常の吟醸造りで60ppm以上となり、酒質も整った吟醸用酵母を開発する。	17	19	B	高香気性吟醸用酵母は、醸造試験まで終了し、実用化の可能性が見えているが、低アルコール清酒用酵母及び発泡清酒用酵母は醸造試験がまだ残っているため。	福島県オリジナル清酒酵母の開発に向けて、高香気性吟醸用酵母の醸造試験までが終了し、実用化や普及の目処が立ったことから、本研究の成果は目的を概ね達成したと判断される。

試験研究機関名 農業総合センター

所 管 課 (室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	経営管理技術及び生産・流通システムの高度化	稲作を基幹とした土地利用型農業における規模拡大方策と生産体制の確立	経営規模拡大による低コスト水田作経営体展開のための技術及び経営構造を明らかにするとともに大規模水田作のモデル経営を構築し、地域的対応方策と定着条件を解明する。	県が育成目標とする30ha規模の水田作経営体の実態調査から、経営展開過程と生産力形成要因等について解析し、その育成・定着のための経営的・技術的対応方策を検討する。	18	19	B	当初計画期間どおりに実施・完了し、研究目的とした技術課題を解決しながら、活用できる成果を公表することができた。しかし、現場で活用するには、各地域の条件を入力し、様々なモデル経営提示が必要となる。	本成果については、外部環境(燃料や肥料の価格高騰等)や内部環境(経営規模や労働力等)によって、得られる結果は様々であるので、固定された指針の策定より、使用したシステムの現場での活用を考えるべきではないか。
2	1農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発	地域特産果樹の農業登録促進試験	地域特産果樹振興のために、本県産イチジクの病害虫の発生状況を把握し、これらに対応可能な農業の検査と農業登録のための基礎的データの蓄積をはかる。	イチジクの病害虫の発生状況を調査し、対象病害虫に対して必要な農業の基礎的データを蓄積し、防除体系を策定・充実させる。	18	19	A	目標が早期に達成され、イチジクの病害虫防除体系が「農作物病害虫防除指針」に掲載された。	マイナー作物としてのイチジクが新規に導入され、地域特産物として戦略的に定着しつつある。マイナー故の標準技術作りは、産地育成に不可欠な課題であり、産地消型・すき間型産地育成におけるモデルケースとなる。2の課題とも連携して、今後の新規作物の作目選定と標準技術策定にこの経験を活かしていなければならない。

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター

所 管 課 (室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業、木材産業づくり	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	野生きのこ優良品種選抜	野生きのこの菌株を採取し、それらの交配・選抜等により、優良な子実体を形成する優良株を作出する。	ムキタケ54株、ブナハリタケ23株の野生株を収集し、原木栽培により優良な系統を選抜した。従来の栽培方法の改善と種床による栽培の可能性についても検討を加えた。	15	19	B	ムキタケ、ブナハリタケについては原木栽培用の優良系統の選抜ができた。また、浸水棚差し法により栽培方法の改善が図られた。	低カロリー食品の代表格である食用キノコの生育条件や栽培法が明らかになったことは、健康維持のためのレシピが増える可能性を感じさせる。調理法を添付した販売方法などを工夫することで、販路を広げられる可能性が生まれた。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業、木材産業づくり	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	ナラ類の集団枯損に関する防除技術の開発	ナラ類集団枯損を抑制しナラ類資源を保護する。	カンガキクイムシ駆除法として天幕くん蒸法と玉切り法を開発した。	15	19	B	ナラ枯れの動態を明らかにするとともに、駆除方法として開発した被害木を伐採して2週間天幕くん蒸する方法と短く玉切りする方法を活用することにより、ナラ枯れ被害の抑制に寄与される。	森林保全のための技術開発は大切な課題であり、評価は適当である。
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業、木材産業づくり	県士の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	海岸マツ林の施業体系と塩分捕捉効果	海岸防災林での造成から更新に至るまでの適正密度管理の解明 海岸マツ林の防災効果を測定するための指標としての塩分捕捉量の把握	海岸マツ林に試験区を設定し、成立本数別調査を実施するとともに、塩分捕捉量の測定を行った。	15	19	C	当初目的としていた施業体系の確立には至らなかったが、海岸マツ林の塩分捕捉効果を示すデータが得られたことから、海岸マツ林の公益的機能を示す資料等への活用が期待できる。	相手が自然ということもあり、データ数が少ないとなかなか明確な一定傾向を得るのは難しいと思われる。
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業、木材産業づくり	県士の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	木本類による法面緑化	法面緑化に有望な木本類の選抜と草本類との種子配合比や適正な施工時期の把握 林道の安全通行の確保と管理費削減を図る木炭による植生抑制手法を開発する。	林道法面で、木本類種子配合比や時期を変えて施工し、発芽率や成長過程を比較調査した。 炭材吹き付けの混入割合、資材、厚さ等植生抑制試験の効果を検討した。	15	19	C	木本類と草本類の種子配合比や適正な施工時期の把握には至らなかったが、法面緑化に有望な木本類を見いだされた。また、炭材吹き付けによる植生抑制効果が明らかとなった。	緑化事業に反映させるためには、現場での発芽不良の原因を明らかにし、良好な発芽が得られる条件についても検討する必要があると考えられる。
5	21世紀の豊かな森林、活力ある林業、木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	野生きのこ人工栽培技術の確立	サクツバタケ、ツチグリ等県内に自生し、食用とされ、特産品化の要望の高い野生きのこ類について、その生態を明らかにするとともに人工栽培法を検討し、技術の確立を図る。	1食用野生きのこの採取と菌糸の培養 2食用野生きのこの生理生態調査 3適性培地組成の把握と栽培方法の検討 サクツバタケ、ツチグリ、ムラサキシメジを対象に実施した。	15	19	B	ムラサキシメジ、サクツバタケについては実用的な栽培方法まで開発することができた。ツチグリについては、菌の分離培養が可能となった。	低カロリー食品の代表格である食用キノコの生育条件や栽培法が明らかになったことは、健康維持のためのレシピが増える可能性を感じさせる。調理法を添付した販売方法などを工夫することで、販路を広げられる可能性が生まれた。

試験研究機関名 水産試験場

所 管 課 (室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	秋サケ資源増殖技術の開発	適正な漁獲管理に資するために、サケ資源の動態と動向を把握し、回帰層数予測の精度向上を目指し、新たな回帰予測手法の開発を行う。	予測に必要な年齢組成データを効率的に取得できる方法を開発し、それを加味した予測精度の向上を検討するとともに、放流後の沿岸水温や岩手県の来遊数の関係性を解明することで、予測値の信頼性について検証した。	16	19	B	データ収集方法の改良に加え、放流後の沿岸水温や岩手県の来遊数を加味した予測値の検証が図られ、予測精度の向上につながった。	サケの漁獲管理のための基礎的研究であり、評価は適当である。